



制度〈基本〉

運用・商品〈基本〉

運用・商品〈実践〉

その他

投資信託のパッシブとアクティブって何？

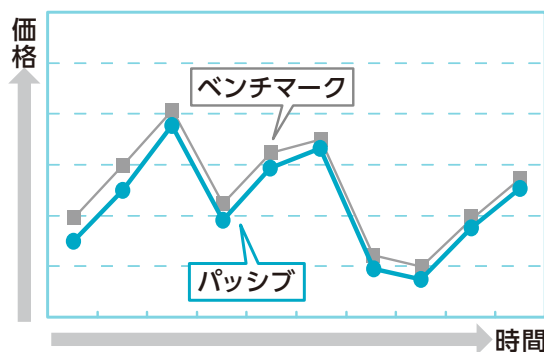
投資信託の運用スタイルには、大きく分けて「パッシブ運用」と「アクティブ運用」の2つがあります。運用スタイルは、投資信託を選ぶ際の検討材料の一つにもなります。2つの違いを知っておきましょう。



パッシブ運用

・・・ TOPIX (東証株価指数) 等の市場指数を運用の指標 (ベンチマーク★) とし、ベンチマークに連動する運用成果を目標とする運用手法のことです。その代表的なものが「インデックス運用」で、この手法の投資信託は「インデックス型」や「インデックスファンド」と呼ばれます。

市場の動きと同じように動くことを目指すので、市場相場が上がっても下がっても、それに追随する値動きをし、ベンチマークとの乖離が小さいファンドが良いファンドとされます。原則、ベンチマークと同様の銘柄構成で、銘柄選択等にあまり手間がかからないため、信託報酬は低めです。運用実績は、ベンチマークより信託報酬等のコスト分だけ下回るのが一般的です。

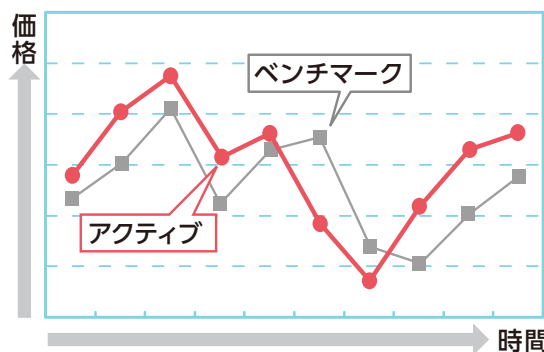


- ベンチマークを上回る運用成果は期待できない
- 市場連動で、値動きが分かりやすい
- 運用コストが低め
- 商品ごとの運用内容には大きな差がない。信託報酬の差が実績に影響する
- 商品数は多め (ベンチマークに類似)

アクティブ運用

・・・ ベンチマークを上回る運用成果を目標とする運用手法のことです。ベンチマークを定めていないものや参考指数を示しているものもあります。

日々の市場の値動きを追うのではなく、市場相場が上がっても下がっても、常に、将来中長期的に価格の上昇が見込まれる銘柄を厳選し、ベンチマークを上回る高い運用成果をあげるファンドが評価されます。銘柄を厳選して投資するため、銘柄の絞り込みや調査・分析等の手間がかかる分、信託報酬は高めになります。



- ベンチマークを上回る運用成果が期待できる。下回る場合もある
- 運用会社の運用方針や運用体制等の影響を大きく受ける
- 運用コストが高め
- 商品により実績に差が出る。実績はコスト込みのため、コストが高くても、それに見合う十分な運用成果が出ていれば問題ない
- 商品数は少なめ (商品を厳選)

★ベンチマークについては、「リそにゃ」とまなぼ！2023年8月号をご確認ください。

コラム

パッシブとアクティブ、どちらを選ぶと良いとは一概には言えません。DCの様に分散しながら長期的に資産を増やしたい場合はパッシブ運用が基本になりますが、ある程度リスクを取り、市場指数を大きく下回る可能性も許容できるのであれば、アクティブ運用の商品も選択肢になります。ご自身に合った運用方法を選択し、月次レポート等で運用実績を定期的にチェックしましょう。



“リそにゃ”とまなぼ！は
毎月発行しています。

バックナンバーはこちら
からご覧いただけます。



<https://www.resona-tb.co.jp/401k/pop/channel/oshiete/>

2023年9月発行

リそな銀行 信託年金営業部
DC運営管理グループ

〒540-8607 大阪市中央区備後町2-2-1

本レターに関するお問合せ先

リそな銀行 確定拠出年金コールセンター
☎ 0120-401-987+「2#」

本レターの無断引用・転載はお断りします。